

平成31年2月議会一般質問

生命感溢れる諏訪湖に戻って欲しい！そんな想いを込めて

【共田質問】諏訪湖創生ビジョンでは、水質改善、湖周の整備やサイクリングロードなどを進めながらまちづくりをしていく計画です。そんな中、諏訪湖でエビや小鮒などの生物が激減しています。漁協の漁獲高も最盛期に比べると1/40以下です。1メートルも堆積したヘドロ、ワカサギの大量死、復元されないエゴと呼ばれた入り江など、生態系の回復が進んでいないようですが状況は？

【回答】現在様々な調査をしています。結果は3月末までに公表します。また、水生生物の生息状況等を踏まえてナノバブルの活用や改善効果の検討をしていきます。湖周辺の動植物の分布状況を調査し、今後5年間の間にエゴの再生に向けた取組を進めます。

若者に希望や夢を持ち学び長野県で活躍してほしい！

【共田質問】長野県内がたいへん人手不足、そのため活

躍の場が沢山あります。社会変化の中、新しい可能性があることを県外へ出て行く若者や学生に伝えなければなりません。今後必要とされる人材像や活躍できる職業というものを取りまとめれば、人材育成や産業の在り方に利用できます。どのように把握して若者や学生に伝えていくのかお尋ねします。

【回答】長野県の発展、とりわけ産業の継続的な発展には、人材の育成がきわめて重要で、幅広い観点から、人材育成、人づくりを進めていきたいと考えています。企業訪問や企業アンケートなど様々な機会に、企業経営者や有識者から伺ってきたところで、今後も県内企業の皆様からお話しを伺い、教育委員会とも連携し、広く若者に伝えていきます。

【回答】教育長は社会が大きく変わっていく中で、求められる産業人材のあり方も大きく変わっていくことが考えられます。本県の産業界が求める人材像を知事部局と連携してしっかりと把握し、学校現場での学びの中に、反映していきます。

諏訪の製造業が成長産業へどんどん参入して欲しい

【共田質問】産業の生産性が高い県づくりとして、「航空機産業振興ビジョン」や「医療機器産業振興ビジョン」による振興策が盛り込まれていますが中小・零細企業にとってそれらの分野への参入はハードルが高いとの声を聞きます。そのハードルを下げるためにどのような施策をしていくのか。

【回答】航空機や医療機器ビジョン策定は、本県の優れた精密加工技術を活かすことができる成長期待分野への参入を促進することです。しかし、これらの分野の高度な部品開発には、特有の管理能力や高い技術開発力が不可欠で、中小・零細企業にとっては大きな課題となっています。そこで、航空機では品質管理システムであるJISQ 9100の取得支援や設計技術者の育成、医療機器では、国の医療機器審査を円滑に受けられるためのアドバイザーなどを行っています。一方、航空機や医療機器分野の製造には、特有の管理能力や高い技術開発力を必要

としない部品や工具などもあります。これらの製造に関する技術支援なども併せて行い、参入拡大を図ります。

農政林務委員会での質問

農政部

【共田質問】諏訪湖の漁獲高が激減していることについてどのように考えていますか。

【回答】諏訪湖漁協の漁獲高は昭和50年代の最盛期500tを超えていました。現在は10t程度と低迷しています。鯉の養殖についても昭和50年代は1300t超えていましたが、現在は10t〜30t程度です。時代の変化と生態系が変わっていることが原因です。生態系の回復にはエゴの整備や多孔質の構造を持つ護岸整備などが必要です。諏訪湖創生ビジョンの中で生態系の回復を他部局とも連携して進めてまいります。より多くの県民がスポーツを楽しめる環境づくりに努めていきます。また、連携しているプロスポーツチームには150tを超える事業に協力いただいています。国体に向けた競技力向上など幅広い分野で連携を強化に努めていきます。

林務部

【共田質問】岡谷の豪雨災害を受けて防災と森林管理の関連性についてお尋ねします。

【回答】平成18年の岡谷の豪雨災害を翌年にメカニズムの解明をしました。その大きな原因は森林の管理にありました。原因として二つ、一つは間伐を行わない為に根が十分に育っていなかったこと、もう一つは適した種類の木でなかったことです。これを受けて長野県森林づくり指針が作られ現在おこなわれている事業はこの指針に沿って進められています。森林の大切さを引き続き伝えていきます。



農政林務委員会での質問